

元気なうちから「墓友」と呼ばれる友人らと納骨の生前予約をしたり、「死後離婚」をして配偶者の墓に

いまどきの墓事情

一緒に入らなかつたりと、近年、墓や霊園の利用方法が変化し多様化している。三笠市にある民間霊園では、樹木葬墓地や、個人用でなく合葬の合同墓を利用する人も増えている。霊園を訪れ、今どきの墓事情を探った。
(編集委員 福田淳一)

墓友、死後離婚…

墓友は、同じ墓や霊園に納骨することを約束して交流する人たちのこと。岩見沢市の男性(59)は、三笠市の北海道中央霊園の樹木葬墓地を、近所に住む2家族と一緒に生前予約した。墓地は隣り合う3区画。親の遺骨を埋葬したり、それぞれの夫婦用にしたりすると

いう。男性は「3世帯とも、子どもは札幌や道外に住んでおり、(一般的な)墓を建てて管理するのは難しい。近所同士なら、連れだつて1台の車でお参りもできて便利」とメリットを語る。

札幌市の女性3人(60、61歳)は高校時代の同級生



多様な要望に応じ、樹木葬墓地(手前)や、合同墓など埋葬の多様化が進む北海道中央霊園
＝高田設計(恵庭)提供

配偶者の墓には入らず

で親友。いずれもシングルで、昨年、2〜3人用の1区画を生前予約した。3カ月に1回程度、霊園に遊びに来て弁当を広げるなど、開放的な雰囲気を楽しんでいる。女性の1人は「亡くなつても一緒のお墓にいたいことができると思うとうれしい」と言う。

近年話題の死後離婚は造語。配偶者の死後に親族との縁を切る「姻族関係終了届」を市町村に提出することを指す。届けを出すことで「一緒にの墓に入らない」という意思を込める意味合いはありそうだ。

札幌市の女性(61)は昨年、夫を亡くし、遺骨は先祖代々の墓に埋葬。一方、自分用には、北海道中央霊園の合同墓を生前予約した。「夫から暴力を受けていたので、夫と同じ墓には

絶対入らないと決めていた。しゅうとめからもいじめを受けていたので死後離婚を決めた」と語る。合同墓を選んだのは、死後離婚に関係ない子どもに迷惑をかけたくないからだという。

別の札幌市の女性(68)は、病気で余命は長くない夫との死後離婚を考え、樹木葬墓地で独身の友人と隣り合わせの区画を生前予約した。「夫とは10年以上、別居状態だが、すぐに離婚はできない。夫の埋葬後に死後離婚して、その後の人生は墓友の友人と有意義に過ごしたい」と話す。

5年以上、事実婚の滝川市の男性(67)は、妻と10年以上前に離婚。事実婚相手の女性も夫と死別した。男性に家の墓はなく墓を建てても将来、守る人がいない。「迷惑をかけたくない」と合同墓を選んだ。「この年になって婚姻関係にならなくとも良い。先に亡くなった方が、遺骨を埋葬する約束をしている」

北海道中央霊園の武田実理事長(57)は「墓友のよように、遺骨の埋葬も選択の時代。社会環境の変化に応じた墓を提供していきたい」と話している。